

安全データシート (SDS)

1 化学品及び会社情報

化学品の名称

製品名 発泡剤 B 剤

会社情報

供給者の会社名称 ナガセルータック株式会社
担当部署 品質保証・環境対策部
住所 〒598-0094 大阪府泉南郡田尻町りんくうポート南 1-6
電話番号 072-466-7711
Fax 番号 072-466-7877
緊急連絡電話番号 上記に同じ

推奨用途

反応剤

使用上の制限

上記の用途以外の使用はしない。

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

分類できない

健康有害性

急性毒性（吸入：粉じん／ミスト） 区分 4
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 2B
呼吸器感作性 区分 1
皮膚感作性 区分 1
皮膚腐食性／刺激性 区分 2
発がん性 区分 2
特定標的臓器毒性（単回ばく露） 区分 3
特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分に該当しない

環境有害性

区分に該当しない

GHS ラベル要素 絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
吸入すると有害
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を
起こすおそれ
発がんのおそれの疑い
呼吸器の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこ
と。
容器を密閉しておくこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入し
ないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこ
と。
屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用するこ
と。
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用するこ
と。

[応急処置]

皮膚に付着した場合：多量の水／石けん（鹼）で洗う
こと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやす
い姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は
外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手
当てを受けること。
医師に連絡すること。
気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けるこ
と。
皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診察
／手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けるこ

と。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管（貯蔵）] 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

[廃棄] 内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性

イソシアネートは反応活性が強く、水分等と反応(発熱反応)し、二酸化炭素を発生することを考慮して、十分に注意すること。内容については「7.取り扱い及び保管上の注意」や「10.安定性及び反応性」等の記載内容を確認すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号			主成分 に関する 割合	濃度又は 濃度範囲 (wt%)	
		化審法	安衛法	化管法			
ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート (主成分)	なし	9016-87-9	7-872	既存※	第一種 指定化学物質	57	
	4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート (4,4'-MDI)				101-68-8	第一種 指定化学物質	40
	2,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート (2,4'-MDI)				5873-54-1	非該当	3
アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル) (副成分)	103-23-1		2-861	非該当	第一種 指定化学物質	9	

※：詳細は 15 項に参照すること。

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。 製品に触れた部分を水または微温湯を使用し石鹸で洗浄する。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 瞼を上下に開き眼球や瞼の隅々まで水がいきわたるようにする。 症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、無理に吐かせてはいけない。直ちに医師の診断を受けること。

急性症状の最も重要な徴候症状

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
吸入すると有毒
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
呼吸器の障害

遅発性症状の最も重要な徴候症状

発がんのおそれの疑い
長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害

応急措置をする者の保護に必要な注意事項

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

火災時の特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後は濡れた液体の中和作業を行う。その間、部外者を立ち入らせない。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏出した場所の周辺にロープを張るなどして、関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
こぼれた場所の換気をよくする。
漏れ部を仮補修し、漏れを止める。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。
少量の場合、中和剤を散布して中和するか、砂、土、おがくず等に吸着させ除去する。ぼろ布、紙屑等で拭き取った場合は、蓋つき容器に回収する。
大量の場合、こぼれた液が広がらないように、砂、土、おがくず等で囲う。できるだけ漏出物を容器に回収する。回収容器は密閉してはならない。回収できなかったものは中和剤を散布して中和し、又は、砂、土、おがくず等に吸着させ除去する。
漏出場所は十分水洗する。
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに、適切な消火剤を準備する（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
火花を発生しない安全な用具を使用する。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。 容器を接地すること、アースをとること。 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
接触回避	裸火、高温、発火源等
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

保管

技術的対策	保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 屋外で保管する場合は、容器に雨水等の接触がないように防水シートで覆うこと。
混触禁止物質	酸化剤、還元剤等
保管条件	直射日光を避け、冷暗所に保管する。高温物を近づけない。
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

4,4'-MDI

ACGIH	0.005ppm	TWA
日本産業衛生学会	0.05mg/m ³	TWA

その他成分

ACGIH	設定されていない
日本産業衛生学会	設定されていない

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。
高温下や、ミストが発生する場合は換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具	空気呼吸器（JIS T 8155）、送気マスク（JIS T 8153）、防毒マスク（JIS T 8152）を着用する。
手の保護具	ゴムまたは樹脂製の不浸透性手袋を着用する。
眼及び/又は顔面の保護具	ゴーグル型保護眼鏡や保護面を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて長袖の保護衣、保護エプロン等を着用する。

特別な注意事項

情報なし

9 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	茶褐色
臭い	ほとんどなし
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	情報なし
可燃性	情報なし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	224℃（セタ密閉式）
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	情報なし
溶解度	情報なし
<i>n</i> -オクタノール／水分配係数（log 値）	情報なし
蒸気圧	情報なし
密度及び/又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	該当しない

10 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い条件下では安定である。
化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害性反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	裸火、高温、発火源等
混触危険物質	酸化剤、還元剤等
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	情報なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	情報なし
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	情報なし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	情報なし
誤えん有害性	情報なし

成分の有害性情報

ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート

急性毒性（経口）	モノメリック MDI を約 50% 含有するポリメリック MDI の LD50 > 5000 mg/kg から「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
急性毒性（経皮）	モノメリック MDI を約 50% 含有するポリメリック MDI の LD50 > 5000 mg/kg から「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
急性毒性（吸入：ガス） 急性毒性（吸入：蒸気）	GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。ポリメリック MDI を飽和蒸気濃度が非常に低い液体であり(0.003ppm at 20°C)、この濃度は毒物学上の作用は全く無い為、「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
急性毒性（吸入：粉じん／ミスト）	モノメリック MDI の LC50(4 時間)は 490mg/m ³ であるが、そのような人工的に発生させた微細ミストは職場で発生することはなく、ばく露の可能性は全くないことから EU の専門家はこのデータを基に分類するのは不適當であると結論付けている。ポリメリック MDI の区分は“Harmful” から区分 4 とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
皮膚腐食性／刺激性	動物と人との全般的な試験結果は、僅かな刺激を示し、1つの試験結果ではより厳しい状況刺激を示した。EU の区分では刺激性(R38)。これらの結果から区分 2 とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	いくつかの動物による調査では僅かな目の痛みを示し、人の目にいくらかの刺激を示した。EU 区分は刺激

呼吸器感作性	性(R36)。これらの結果から区分 2B とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年) 呼吸器感作性があることは人と動物で実証されており、また EU の呼吸器感作性(R42)から区分 1 とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
皮膚感作性	皮膚感作性あることは人と動物で実証されており、また EU の呼吸器感作性(R43)から区分 1 とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
生殖細胞変異原性	モノメリック及びポリメリック MDI の特定の哺乳動物による体細胞変異原性データがあるが、それらは陰性である。この結果から「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
発がん性	国内外の分類機関による既存分類でとして、IARC ではグループ 3 に、EPA では cannot be determined、DFG MAK では Category 3B に分類されている。また、ラットを用いた吸入ばく露による発がん性試験では、肺腺腫が雄 6/60、雌 2/60、肺腺がんが雄 1/60 となった例がある。以上の結果から、区分 2 とした。(NITE2020 年)
生殖毒性	妊娠ラットに呼吸可能なポリメリック MDI エアロゾルを暴露した結果、監査された毒性は体重の減少、食物と水の消費量の減少、および気道への影響のみであり、胎児は正常に発育し、先天性欠損は見られなかった。また、MDI、TDI について最長 2 年間暴露された動物の生殖器系には影響を示さなかった結果が報告されていることから、陰性と判断し「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	モノメリック及びポリメリック MDI の動物試験で一時的な刺激性作用が報告されているが、MDI は低蒸気圧であり、この濃度では人への刺激性はほこの濃度では人への刺激性は殆ど起こらない。しかし、MDI は推奨ばく露限界以上の濃度では刺激を起こす可能性があり区分 3(気道刺激性)とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	人において、長期ばく露により肺機能低下と呼吸器症状が見つかっているが、これらのばく露は一般的には他の原料、時にはトリレンジイソシアネートとの相互ばく露である。Ott 及び Ott,Diler and Jolly は、トリレンジイソシアネートの呼吸器感作性が肺機能低下への寄与の可能性を示している。この結果と GHS の 3.9.1.6 章に基づき、反復ばく露後の肺への影響は特定標的臓器毒性では評価しないと結論付け、「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023 年)
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)

急性毒性 (経口)	ラット LD ₅₀ = 7,392~50,000 mg/kg マウス LD ₅₀ = 15,000~25,000 mg/kg この試験結果に基づき、区分に該当しないとした。
急性毒性 (経皮)	ウサギ LD ₅₀ = 8,410~15,100 mg/kg この試験結果に基づき、区分に該当しないとした。
急性毒性 (静脈)	ラット LD ₅₀ = 900 mg/kg ウサギ LD ₅₀ = 540 mg/kg この試験結果に基づき、区分に該当しないとした。
急性毒性 (吸入：ガス)	GHS の定義による液体のため、ガスでの吸入は想定されず、区分に該当しないとした。
急性毒性 (吸入：蒸気)	情報なし
急性毒性 (吸入：粉じん/ミスト)	情報なし
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ 非刺激性 CERI ハザードデータ集 97-12(1998)のウサギを用いた皮膚一次刺激性試験結果、「わずかな紅斑と 72 時間後の消失」とあるが、平均スコアが低いと考えられ、環境省リスク評価第 2 巻(2003)文献では「動物物試験で、皮膚に刺激性なし」とあり、区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	環境省リスク評価第 2 巻(2003)本文にて、「動物実験では眼や皮膚への刺激性はない。」という記述があるが、区分外とするにはデータ不足のため、分類できないとした。
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	ウサギを用いた皮膚感作性試験結果報告があるが、試験数が少なく分類出来ないとした。
生殖細胞変異原性	IARC 29(1982)、IARC 77(2000)の記述から、生殖細胞 <i>in vivo</i> 経世代試験(優性致死試験)で弱い陽性であるが、9,220 mg/kg という現在のガイドラインの限界用量を超える用量で、且つ腹腔内投与による結果であり、仮に弱い反応性があるとしても、生物学的意義は無視する程度のものであると考えられることから陰性と判断、生殖細胞 <i>in vivo</i> 変異原性試験なし、体細胞 <i>m vivo</i> 変異原性試験で陰性であるこの試験結果から区分に該当しないとした。
発がん性	NTP 分類なし IARC 77(2000)グループ 3 (ヒトに対する発がん性については分類出来ない物質) OSHA 分類なし 以上より区分に該当しないとした。
生殖毒性	生殖毒性の NOEL については、試験結果が存在する。一つは、ICI/TL の報告書(1988b)にある 28 mg/kg(餌中 300 ppm)、もう一つは、170 mg/kg(餌中に 1800ppm)である。SIAM(1988b)は前者を、US EPA、OECD の SIAM(2000)、新エネルギー・産業技術総合開発機構(2006) は後者を採用している。170 mg/kg(餌中に!800

ppm)で見られた変化(化骨遅延、尿管の拡張、尿管のねじれ)は、恒久的な異常(anomaly)ではなく、いずれも軽度で出産後正常回復する性質の変異(variant)であると判断し、これらは出生児の発生毒性の範疇ではないと言う US EPA と同じく、可塑剤工業会は、生殖毒性を区分に該当しないと判断した。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)
 特定標的臓器毒性 (反復ばく露)
 誤えん有害性
 その他

情報なし
 データ不足のため、分類できない。
 情報なし
 内分泌攪乱作用 エストロゲン活性を評価したところ、生体内試験(卵巣摘出ラットを使った子宮肥大反応試験)では活性を示さなかった。酵母ツーハイブリットアッセイにおいて、1mMの濃度までエストロゲン受容体との結合は認められなかった。

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

成分の環境影響情報

ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート

水生環境有害性 短期 (急性)	以下の根拠より、「区分に該当しない」とした。 生態毒性 魚類: LC50 >1000 mg/L(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023年) 甲殻類: LC50 >1000 mg/L(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023年) 藻類: LC50 >1000 mg/L(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023年)
水生環境有害性 長期 (慢性)	NOEC >1640 mg/L から「区分に該当しない」とした。(ウレタン原料工業会モデル SDS 2023年)
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)

水生環境有害性 短期 (急性)	水溶解度(0.0032mg/L(SIDS、2002))までの濃度で急性毒性が報告されていないことから、区分に該当しないとした。
	LC(96hrs) ファットヘッドミノール >0.78 mg/L
	LC(96hrs) ブルーギル >0.78 mg/L
	LC(48hrs) オオミジンコ 0.660 mg/L
水生環境有害性 長期 (慢性)	良分解性があり、かつ生物蓄積性が低いことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	BOD = 71%
生体蓄積性	既存化学物質の安全性点検結果では濃縮性が低い物質分類されている。ブルーギルへの濃縮性(BCF = 27)
土壤中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (ADR/RID の規定に従う)

国連番号	2810
品名 (国連輸送名)	その他の毒性、液体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	6.1
副次危険性	-
容器等級	II

海上輸送 (IMO の規定に従う)

国連番号	2810
品名 (国連輸送名)	その他の毒性、液体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	6.1

副次危険性	-
容器等級	II
海洋汚染物質（該当・非該当）	非該当
IBC コード（該当・非該当）	非該当
航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）	
国連番号	2810
品名（国連輸送名）	その他の毒性、液体、有機物、他に品名が明示されていないもの
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	6.1
副次危険性	-
容器等級	II
国内規制	
陸上規制情報	消防法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
海洋汚染物質	該当しない。
航空規制情報	航空法に従う。

緊急時応急措置指針番号：153

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質審査規制法	優先評価化学物質： ・ α -（イソシアナトベンジル）- ω -（イソシアナトフェニル）ポリ [(イソシアナトフェニレン) メチレン]
化学物質排出把握管理促進法	施行令第1条別表第1第一種指定化学物質： ・ポリメチレンポリフェニルポリイソシアネート ・4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート ・アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)
労働安全衛生法	労働安全衛生法第57条に規定される表示(ラベル)対象物、第57条の2に規定される通知(SDS等)対象物、第57条の3に規定される調査(リスクアセスメント)対象物 「令和7年4月1日以降」： ・2,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート ・1,1'-メチレンビス(イソシアナトベンゼン)※ 安衛則第594条の2第1項が適用される皮膚等障害化学物質等 皮膚刺激性有害物質及び皮膚吸収性有害質：

- ・4,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート
- 安衛則第 594 条の 2 第 1 項が適用される皮膚等障害化学物質等 皮膚刺激性有害物質：
- ・ α -(イソシアナトベンジル)- ω -(イソシアナトフェニル)ポリ [(イソシアナトフェニレン) メチレン]
 - ・2,4'-ジフェニルメタンジイソシアネート
 - ・1,1'-メチレンビス(イソシアナトベンゼン)※

※1,1'-メチレンビス(イソシアナトベンゼン)
(CAS No.26447-40-5) は、4,4'-MDI と 2,4'-MDI を含む成分「モノメリック MDI」である。

消防法

第 4 類引火性液体、第四石油類

海洋汚染防止法

有害液体物質 (Y 類物質)：

- ・ポリメチレンポリフェニルイソシアナート
- ・アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)

外国為替及び外国貿易法

アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル) は、輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項に該当するため、経済産業省のガイドラインの参照や事前相談が望ましい。

16 その他の情報

- ・この情報は、新しい知見および試験等により改定されることがあります。
- ・本書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性等の情報提供であって、いかなる保証をなすものではありません。
- ・注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いをする場合には、新たな用途用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。
- ・製品を構成するすべての化学品には、未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるよう、お願い申し上げます。